

社会技術研究開発事業  
令和4年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」  
「都市集合住宅高齢者の社会的孤立を予防する持続可能な  
コミュニティ構築」

片桐 恵子  
(神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2-1. 研究開発目標 .....	2
2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン .....	3
2-3. ロジックモデル .....	4
2-4. 実施内容・結果 .....	5
2-5. 会議等の活動 .....	19
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	19
4. 研究開発実施体制 .....	19
5. 研究開発実施者 .....	21
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	23
6-1. シンポジウム等 .....	23
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	23
6-3. 論文発表 .....	23
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	23
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	23
6-6. 知財出願 .....	23

## 1. 研究開発プロジェクト名

都市集合住宅高齢者の社会的孤立を予防する持続可能なコミュニティ構築

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2-1. 研究開発目標

#### (1) スモールスタート期間終了時

**目標1. こころと身体から見た社会的孤立・孤独の関連をあきらかにする** 開始時に質問紙調査を実施。孤独度(低/中/高群)毎にモニターをリクルートし、インタビュー調査、身体機能・認知機能の測定、ICTを利用し健康把握等を実施し、孤独と健康の関連を検討。[成果]孤立・孤独と健康度などの関連を明らかにする。

**目標2. 既存ネットワークの連携と高齢者のICTリテラシーの向上** KIITOによるシニア男性向け参加型の食イベントを実施。既存グループに協力を依頼し、イベント開催で交流機会を提供。サイエンスカフェを実施し高齢者のICTスキルを高める。グローバルスタディプログラムとして大学生と高齢者の交流授業を実施。[成果]多くの住民の参加と高齢者のICTスキルの向上を促す。

**目標3. 活発な住民参加者を生み出す** YYカフェの協力を得て目標2の活動と目標4の生涯教育への参加を促す。[成果]活発な参加者を生み出す。

**目標4. 人生100年時代のレディネの向上** アカデミックサロン、サイエンスカフェ等で、人生100年を生きるために役立つような内容(高齢期の住まい、介護保険、ICTリテラシー、地域交流の重要性など)に関する生涯教育を行う。[成果]多くの住民の参加を促す。

**目標5. 孤立予想モデルの構築** 孤立を予想するモデルを考案。高齢者が自発的に情報を提供する仕組みについて、協力企業を探し検討。[成果]孤立予想モデルを構築する。

#### (2) 本格研究開発期間終了時

**目標1. こころと身体から見た社会的孤立・孤独の関連をあきらかにする** スモールスタート期間の開始時に[調査1]グリーンヒルズ六甲の50歳以上の住民全員に質問紙調査を行う。その中で孤独度(低・中・高群)毎にモニターをリクルートし、[調査2]モニターを対象に、インタビュー調査、[調査3]運動機能(最大筋力、筋厚、平衡機能)・自律神経活動・感情関連ホルモン・認知機能を測定し、[調査4]モニターを対象に、ICTを利用した毎日のデータ取得を行う。[調査1]～[調査3]はスモールスタート、本格研究開発期間の開始時と終了時の計4回の縦断

調査。これらのデータを統合し、孤独と健康の関連を明らかにする。スモール期間・本格研究期間終了時に、本プロジェクトの効果検証を行う。

**目標2. 既存ネットワークの連携とバーチャル・コミュニティの融合** 既存グループについては、新たな協力グループを募って、活動数や内容を拡大させる。

バーチャル・コミュニティについては、サイエンスカフェに参加した高齢者から協力者をリクルートし、学生とともに自身のアバターを作り、学生と高齢者の間、住民同士の間で、オンライン・コミュニティで交流する。

**目標3. 住民リーダーの育成** 神戸大学によるアカデミックサロン、サイエンスカフェ、哲学カフェ、などの生涯学習イベント、YYカフェの活動、KIITO実施の食イベント、既存の活動グループなどへの参加者たちに対して、民生委員や六甲摩耶安心すこやかセンターの担当者などから、個別に手伝いを頼み、徐々に地域問題解決をする人材を育成していく。地域の問題解決について話し合うタウンミーティングの開催などにより、問題点の解決の仕方などを自律的に考え、実行するように促す。

**目標4. サードエイジ・ユニバーシティによる人生100年時代のレディネス/レジリエンスを高める** スモールスタート期間と同様、アカデミックサロン、サイエンスカフェに加えて、神戸大学大学院人間発達環境学研究科内組織のヒューマン・コミュニティ創成研究センターの協力を得て、サードエイジ期に自己を問い直し、これからの生き方を考えてもらう哲学カフェを実施する。また、KIITOの協力を得て、地域のソーシャルビジネスの立ち上げ方講座も開催。高齢期を豊かに生きるための情報を提供していく。

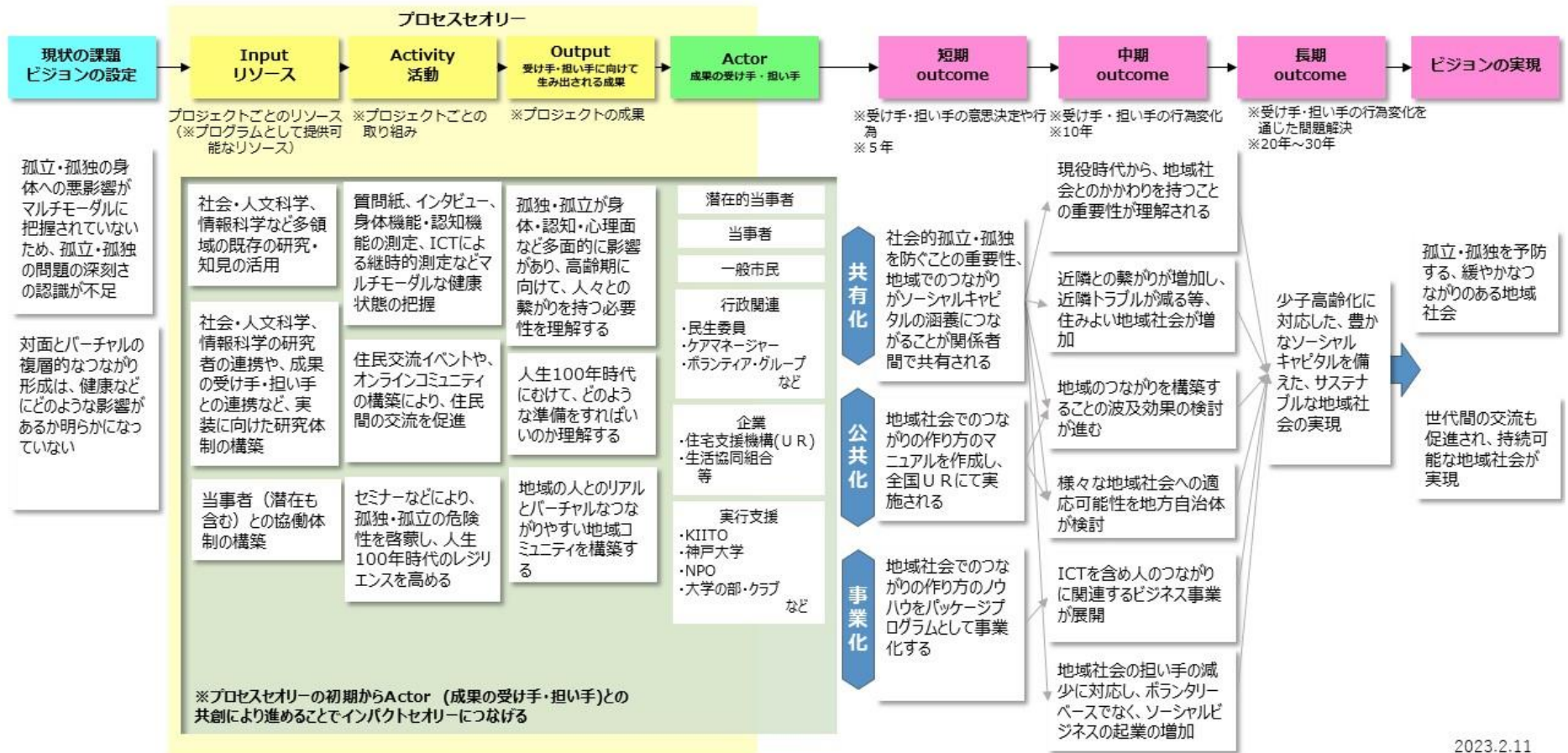
**目標5. 孤立予想モデルの構築** 本格研究期間での調査データも加え、孤立を予想するモデルの精緻化を図る。また、スモールスタート期間で協力企業を探し連携して、商品やサービス開発を行い、試験的な運用を始める。

## 2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン

- Q1. 住民向けイベントの開催で、住民間の交流は増加するのか
- Q2. 住民間のリアルとバーチャルの複層的なネットワークの構築により、住民間の絆は強まる/拡大するのか
- Q3. 人生100年時代に当たり、高齢期の生き方に関する啓蒙は孤独・孤立を防ぎ、well-beingの高い高齢期を実現するのに有効であるのか

### 2-3. ロジックモデル

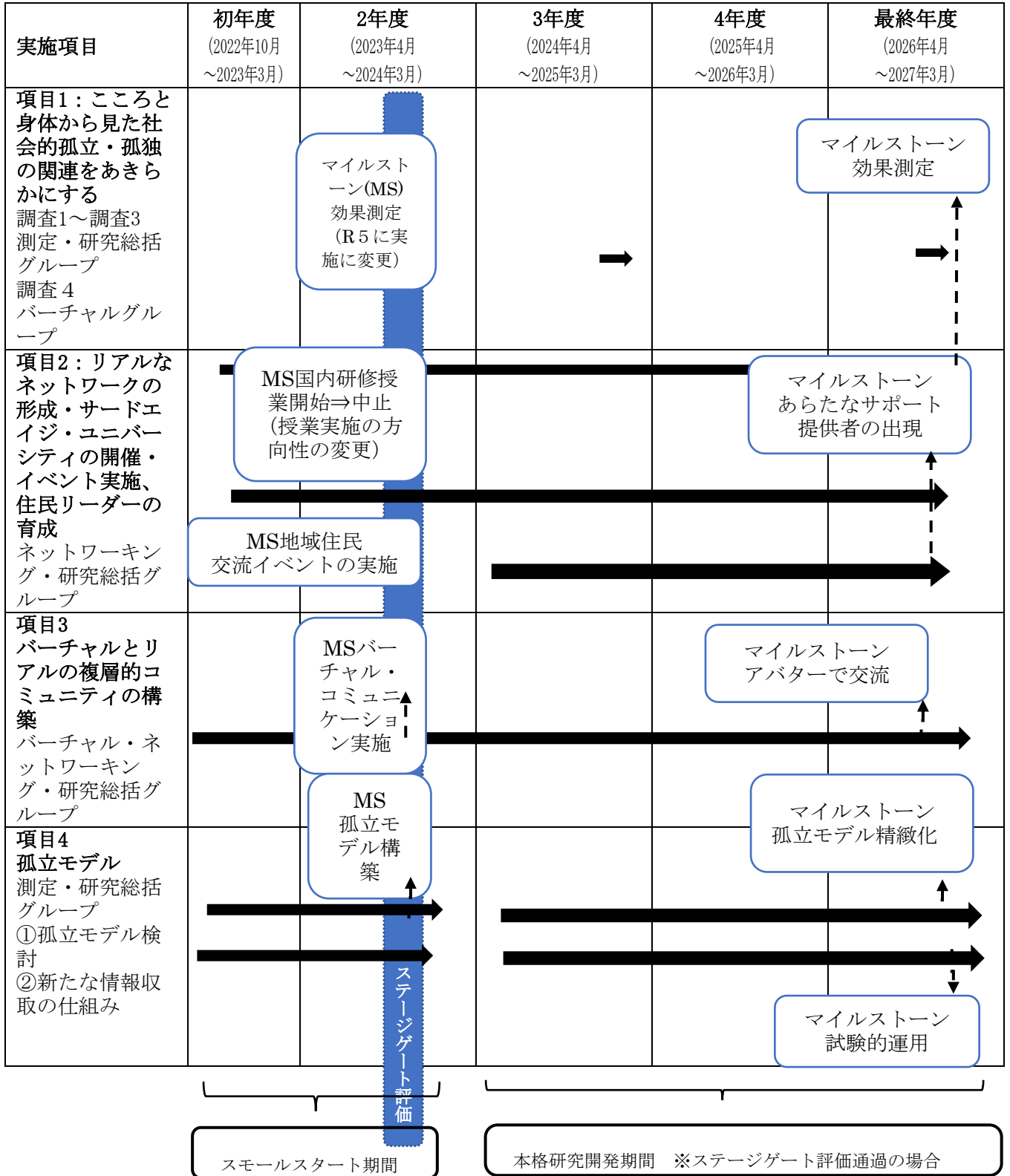
SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)  
「都市集合住宅高齢者の社会的孤立を予防する持続可能なコミュニティ構築」ロジックモデル



2023.2.11

## 2-4. 実施内容・結果

### (1) スケジュール



## (2) 各実施内容

当該年度の到達点①：こころと身体から見た社会的孤立・孤独の関連をあきらかにする

- (1) 調査1：質問紙調査
- (2) 調査2：インタビュー調査、調査3：運動機能（最大筋力、筋厚、平衡機能）・自律神経活動・感情関連ホルモン・認知機能の測定
- (3) 調査4：IoTを用いた調査（くらしのセンシング開始）

令和4年度の秋から冬まで、コロナの流行が収まらず、フィールドにおけるボランティア・グループYYカフェも活動を休止、またURも人が集まるイベントの開催を禁止している状態が続き、ようやく2月5日にキックオフイベントを開催した。

当初の予定では、キックオフイベントを実施した後、調査1を実施し、モニターを募集してから、調査2から調査4を実施するという予定であった。上記調査は縦断調査を予定しているため、イベント実施後の住民の異動の多い年度末における調査は適当でないと判断したため、上記4つの調査の実施を令和5年度に延期した。

当該年度の到達点②：リアルなネットワークの形成・サードエイジ・ユニバーシティの開催・イベント実施、住民リーダーの育成

- (1) 協力グループを募る
- (2) 神戸大学国際人間科学部・グローバルスタディプログラムの国内研修フィールドの実施準備
- (3) アカデミックサロンの実施
- (4) サイエンスカフェの実施
- (5) 哲学カフェの実施
- (6) YYカフェの活動実施

以上(1)～(5)に関しては、コロナの感染状況から実施されなかった。(6)については、YYカフェの活動時に参加して、プロジェクトの説明をし、キックオフイベントについての打ち合わせや、イベントの告知の協力を得た。

### (7) 参加型イベントの開催

期間：令和5年2月5日

実施者：片桐研究室、KIITO・加藤慧ほかスタッフ

協力者：六甲摩耶あんしんすこやかセンター、神戸市灘区鶴甲地区民生委員児童委員協議会、YYカフェ、都市再生機構西日本支社

対象：グリーンヒルズ六甲住民

場所：神戸大学プレゼンテーションホール

2月5日にグリーンヒルズ六甲住民を対象として、「ワイがやフォーラム」と題し

てイベントを実施した。



図表1 イベント案内のチラシ

告知については、上記チラシをグリーンヒルズ六甲全住戸に3回配布した。70名を超える申し込みがあり、コロナ対策上会場定員を70名としたので、70名を超えた時点で、参加申し込みを断った。当日の参加者は63名であった。

キックオフイベントであるため、落語家桂吉弥（神戸大学OB）を招いて、第1部は落語会、第2部は「パンじい」というボランティアを含めた活発な社会参加をしているグループの人、KIITO、と私の3名のトークイベントを実施、「パンじい」という社会参加をするきっかけと参加してよかったことを当事者から、KIITOは地域社会を促す彼らの取り組みの紹介、片桐はこれまでの研究結果から、近隣関係の重要性を訴え、地域の人との緩い絆を形成することを企図した本プロジェクトの紹介をした。





トークショーの様子

そのあと、学生らが、見知らぬ参加者間の交流を促すクイズを行った。参加者全員の来場時に、質問文と答えを配布して置き、正解のペアを作ると景品がもらえるというマッチングクイズであった。正解はホワイエの4コーナー（UR、KIITO、神戸大学、JSTプロジェクト）に掲示してあるポスター内に記載されていた。このクイズは、学生らのアイデアで、彼らが合コンで行うゲームを応用したものであった。



学生がクイズのやり方を説明

**クイズの流れ**

**①自分のクイズの内容を確認**  
認

※クイズは全部で4種類あります!  
(UR・KIITO・神戸大学・JST)

 青色の紙 (問題)

**②その問題の答えをもっている人を見つける**  
る

※クイズのヒントは各展示コーナーのどこかに隠されています!

  橙色の紙 (答え)

**③問題の紙と答えの紙をもってお二人でくじ引きコーナーにお越しください!**



---

**JSTに関する問題** (ヒント: JSTの展示コーナー)

**65歳以上の人口の割合は約〇〇%である (2022年時点)**

クイズの説明用チラシ例

クイズの説明の後、参加者はホールのホワイエに移動した。KIITOのパンじいらによるコーヒーとお菓子の提供もあり、参加者は熱心に4コーナーの展示を眺めていた。



KIITOコーナー



URコーナー：グリーンヒルズ六甲の歴史の紹介～懐かしそうに眺める人々



クイズの景品に並ぶ人々



大賑わいのホワイエ



JSTプロジェクトコーナー

当該年度の到達点③：バーチャルとリアルな複層的コミュニティの構築

(1) ICT教育の実施

コロナ流行が収まらなかったため、実施できなかった。

当該年度の到達点④：孤立モデルの構築

(1) 高齢者が自発的に情報を提供する仕組みの構築：協力企業の検討

期間：令和4年10月～令和5年3月31日

実施者：片桐恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授）

実施内容：ひまわり生命に本プロジェクトの主旨を説明した。今後の進め方について検討してもらうことになった。

(3) 成果

当該年度の到達点②：リアルなネットワークの形成・サードエイジ・ユニバーシティの開催・イベント実施、住民リーダーの育成当日会場では、簡単なアンケート調査を実施した。

上記実施内容の通り、令和4年度は、キックオフイベントの実施を行った。アンケート内容は図表2の通りである。参加者63名のうち、58名から回答があった。

## ワイがやフォーラムアンケート

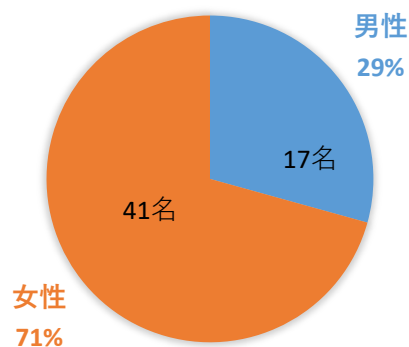
本日はお忙しい中、またお寒いなかご参加いただきありがとうございます。今後の活動の参考にいたしますので、アンケートにご協力をお願いいたします。

- 性別をお答えください。  
男 女
  - 年代をお答えください。 歳代
  - このワイがやフォーラムどうやって知りましたか？  
チラシ 掲示板 知り合いに誘われて 関係者  
その他 ( )
  - あなたはグリーンヒルズ六甲に住んでいますか。  
はい いいえ
  - 誰といらっしゃいましたか？  
1人 家族 グリーンヒルズ六甲の友人・知人 それ以外の友人・知人  
その他 ( )
  - 今日のワイがやフォーラムはいかがでしたか？  
とても良かった まあ良かった あまり良くなかった 全然良くなかった  
どういった点が、展示コーナーも含めて、良かった/良くなかったか、具体的にご記入ください。  
( )
  - 今後、どんなイベントに参加したいですか。興味があるものすべてにをつけてください。  
パン作り お菓子づくり 美味しいコーヒーの淹れ方 防災教室  
お金の話 スマホ教室 メタバース eスポーツ 哲学カフェ  
宇宙の話 地球温暖化 カーボンニュートラル 人生100年時代の生き方  
栄養 ウェルビーイング 小惑星探査機はやぶさ  
月 ブラックホール 地域コミュニティ 運動習慣 フレイル予防  
脳と心理 100歳長寿者の話 参加するつもりはない
- ご協力、ありがとうございました。

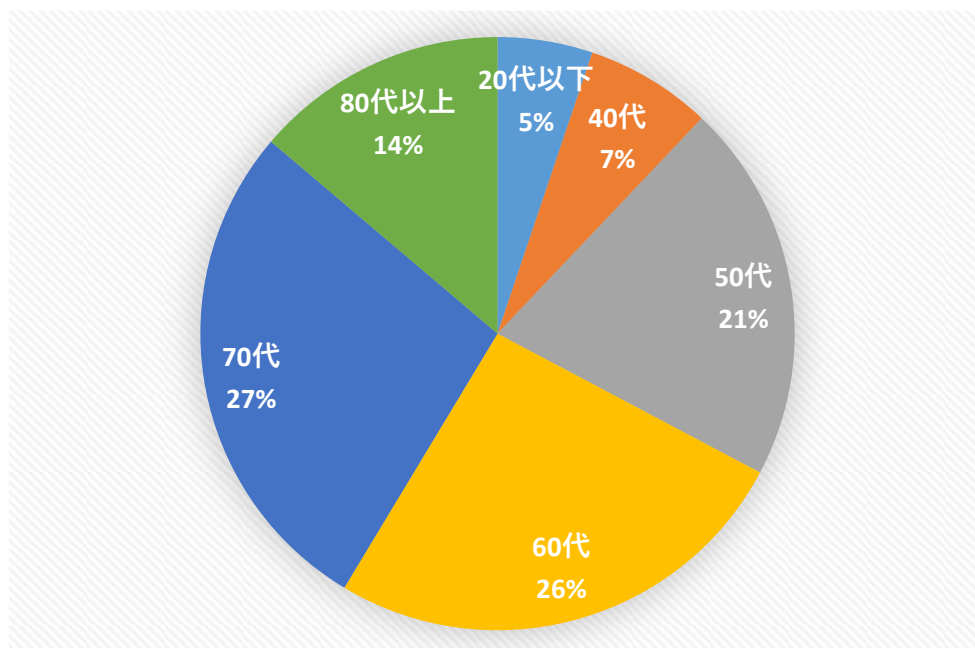
図表2 イベントで実施したアンケート内容

アンケートの結果の概要は以下のとおりである。

### 1) 性別



2) 年代



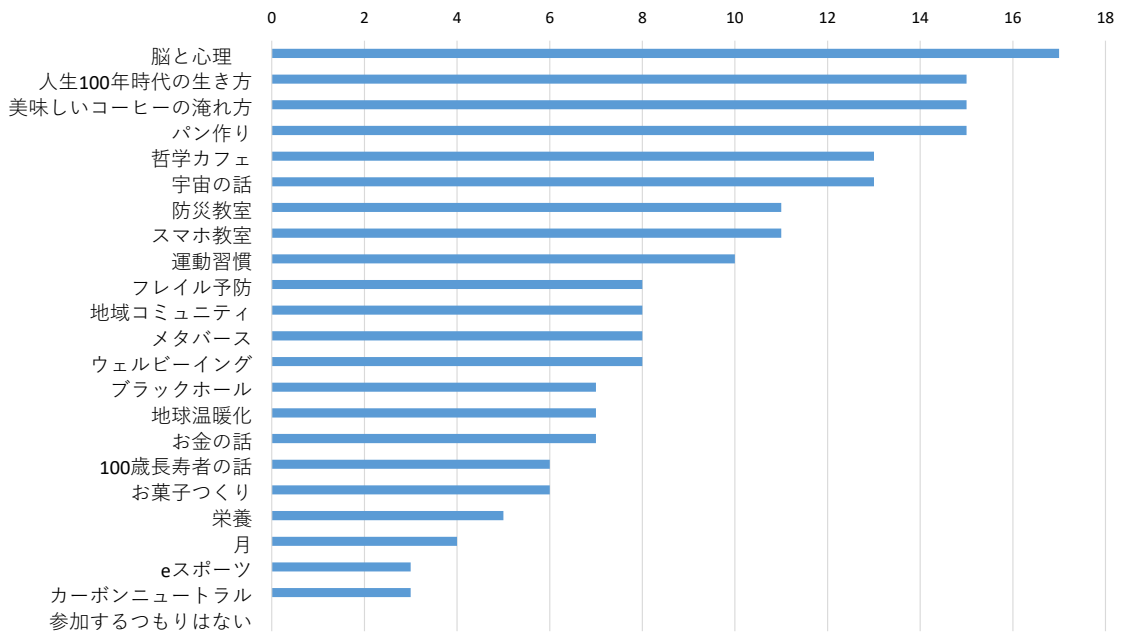
3) イベントを知ったきっかけ

チラシ	34名
掲示板	8名
知り合いに誘われて	12名

4) グリーンヒルズ六甲の住民かどうか

グリーンヒルズ六甲の住民	20名
グリーンヒルズ六甲住民の家族	22名
グリーンヒルズ六甲住民の友人・知人	11名
それ以外の友人・知人	7名

5) 今後参加したいイベント



6) ワイがやフォーラムの評価

とても良かった 44名    まあまあ良かった 13名

7) 自由記述

イ ベ ン ト の 内 容	<b>落語</b>
	はじめての寄席が楽しかったです。
	吉弥さんの落語が生で聞けて嬉しかったです
	久しぶりに落語がきけてよかった。
	慶治朗さん吉弥さんの落語素晴らしかった
	吉弥さんはじめまた落語家さんもお呼びして下さい！！
	生落語初めて聞きました！
	落語が近くで見れてよかったです。
	落語でよく笑いました
	もちろん寄席（まずこれにひかれた）
	<b>トークイベント</b>
	吉弥さん司会によるトークコーナーが良かった
	トークイベントが予想外にとっても参考になりました。
	トークイベントも勉強になりました。
	第2部のトーク、片桐先生のお話はよかったです。パンじいの活動もとてもいいと思いました。
<b>コーナー展示</b>	
地域での取り組み展示等に驚いた	
展示コーナーは良かったが、ゆっくり見る時間が欲しかった。	
ポーと生きてきて今日はじめてウェルビーイングという言葉、展示コーナーで知りました。いろいろ考えました。	



	<b>ネットワーキング</b>
	新たな出会いに良かったです。
	大学とのつながりがより深まったと思います。今後も期待します。
	久しぶりにグリーンヒルズに引越した知人にも会うことができてうれしかったです。
	押しつけがましくなくて、久しぶりの旧知に出会えた。
	<b>地域</b>
	六甲台のことがわかった。
イ	昨年の8月に引越しをして住人のひとりとして地域の事をもっと知りたいと思って参加しましたが、地域と関わることに参加したいと思っています。
ベ	地域でのゆるいつながりがあればと思っていたので正に、望んでいたイベントでした。
ン	地域で和やかな場が出来てゆくのは大変楽しみです。
ト	六甲台の歴史の展示がとても興味深かった。
の	<b>啓蒙</b>
効	この会の趣旨がよくわかりました。シニア世代として、とてもよい取り組みで応援したいと思いました。
果	何か始めるときに・・・できそうな気がしてよかった
	実際活動されている方々の声が聞けていろいろ参考になりました。また是非参加したいと思います！！
	情報が得られ楽しかったです。このような機会を又続けていただきたいです。
	今後老後活動に参考になりました。
	先人のお話や体験談をききたいと思います。
	地域活動参加のきっかけづくりとしてとてもいいスタートだと思いました(含むクイズ)
	新しいコミュニティの有り方に気づけそうです。

	気軽に散歩の途中で行くように楽しいイベントに参加できるのがよかった
	とても楽しく有意義だった。
	とても身近なテーマで、今後の良きアドバイスになりました。
感	とてもよかった。
想	近所で情報を提供してもらえてとてもよかった。次回も参加したいと思う
	孤独老人が仲間に入ると良いですね！
	直接それぞれの立場の方から話を聞けた。思っていたより楽しかったです。

アンケートの回収率は86.6%であり、途中で退出された参加者もいたことから、高い回収率であった。イベントへの評価は全員良い評価であった。

また、自由記述からは、今回のイベントの3つの内容、落語、トークショー、展示コーナーそれぞれに対していい評価を得られたといえる。本イベントはグリーンヒルズ六甲でのプロジェクト開始をアピールしようと考え、当初はUR内の集合所で実施する予定であったが、コロナの感染状況の悪化に伴い、実施ができなくなったため、急きょ大学内のプレゼンテーションホールに実施場所を変更した。本ホールは広いホワイエを有しており、スペースを活かさないのはもったいないと考えて、急きょ展示コーナーを設けたが、写真にみられるように、4展示コーナーすべても活況を呈し、地域への関心の高さや、本プロジェクトの必要性を確認することができた。

当日の参加者の反応の良さや、アンケートの自由記述欄からは、本プロジェクトの目的、地域住民の交流を図り、ネットワークを構築することが、実際のシニアも望んでいることであることが明らかになった。かつてのような拘束感の強い地域社会は嫌だけれど、決して、地域の人々との交流が乏しい状態をいいと思っているわけではないこと、本プロ

プロジェクトで提案するようなゆるい地域のつながりを望んでいることが明らかになった。さらに、人生100年といわれるようになり、高齢期の生き方を戸惑っている様子も判明し、本プロジェクトがまさに高齢者のニーズに合致するものであることを確信することができた。

また、地域に密着したイベントの開催は、気軽に参加できるということで好評であった。特に今回のフィールドは坂が多く、ウォーカビリティも低いことから、高齢者には居住地に近いということはイベント参加を促進する要因であったといえる。

今回のイベント参加により、かつての知り合いとの再会や、あたらしい出会いも生まれ、交流イベントの有効性も確認することとなった。

本プロジェクトを紹介するHPは現在作成中である。またICTが苦手な高齢者にはHPでは情報が届かない可能性が高いため、2023年3月末に、イベントを報告するA5中折パンフレット「ワイがや通信第1号」を作成し、全戸に配布した(図表3)。

**思うより六甲台は個性的?!**  
**ワイがや通信** 六甲台しらべ

イベント終了後に、参加いただいた皆様の声をアンケート形式で集めてみました。  
すると、たくさんの驚きの声がありました。  
六甲台には個性的で楽しい人たちがたくさんいることがわかってきました。

今回ワイがやフォーラムに参加してよかったですか?  
参加者: 63名(申込みは定員70名超え)

毎回 1人  
まあまあよかったです 13人  
とてもよかったです 44人

**今後参加したい内容 Best10**  
今の生活に寄り添った企画にたくさんの声が集まりました

1位 人生100年時代の生き方	4位 お菓子づくり
2位 脳と心理	5位 美味しいコーヒーの淹れ方
3位 パン作り	6位 哲学カフェ
	7位 宇宙の話
	8位 防災教室
	9位 スマホ教室
	10位 運動習慣/お金の話

未来のお話に興味津々な方も!!

- メタバース
- フレイル予防
- 地域コミュニティ
- ウェルビーイング
- 地球温暖化
- プラックホール
- 100歳長寿者の話
- はやぶさ
- 音楽
- 月
- eスポーツ
- カーボンニュートラル
- その他

皆様のご期待に応えられるように、面白い企画を考えていきます!

もっと皆さまの声を聞きたい!! **ワイがやフォーラム 六甲台アンケート**

4月末頃、皆様のもとにアンケートが届きます。ぜひ、皆様の本音をたくさん聞かせてください。

お問い合わせ 神戸大学ウェルビーイング先端研究センター 担当:片桐 [jst-katagiri@harbor.kobe-u.ac.jp](mailto:jst-katagiri@harbor.kobe-u.ac.jp)

神戸大学 KII+O: DESIGN AND CREATIVE CENTER HOME デザイン・クリエイティブセンター神戸  
Waigaya Forum Report vol.1

みんなでワイワイ、話してがやがや、楽しい地域づくり  
**六甲台 ワイがや通信**

毎度 イベントのご報告

令和5年 2月5日(日)  
開催しりとり

主催:神戸大学ウェルビーイング先端研究センター 共催:神戸大学クリエイティブデザイン研究センター/デザイン・クリエイティブセンター神戸  
協力:UR都市機構 RISTEX 制作協力:未来事務所

図表3-1 ワイがや通信第1号(外面)



図表 3-2 ワイがや通信第1号 (内面)

(4) プロジェクトのリサーチ・クエストンについて明らかになったこと

Q1. 住民向けイベントの開催で、住民間の交流は増加するのか

まだ1回のイベント実施でしかないが、地域での緩い繋がり的重要性は多くの参加者に共感された。また知らない人同士を組み合わせたクイズではほとんどの人がクイズに参加され、見知らぬ他者との会話が生まれていた。ニーズがあることは確認でき、イベントは出会いの場となっていたことから、今後のイベントの実施で交流が増加することが期待される。

Q2. 住民間のリアルとバーチャルの複層的なネットワークの構築により、住民間の絆は強まる/拡大するのか

令和4年度はバーチャルネットワークに関しては何も実施できなかったもので、現時点で明らかになっていることはない。

Q3. 人生100年時代に当たり、高齢期の生き方に関する啓蒙は孤独・孤立を防ぎ、well-beingの高い高齢期を実現するのに有効であるのか

今回のイベントの参加者の様子やアンケート調査の結果から、少なくとも多くの高齢者にニーズがあることを確認した。

(5) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・プロジェクトの達成目標に対する現在の進捗状況。当初の予定より進んでいる点、遅れ

ている点。その要因。

なかなかコロナの感染状況が改善しなかったため、キックオフイベントの実施が2月になってしまい、その後予定していた調査が実施できなかった。

- ・各実施項目で得られた結果や成果を俯瞰・統合した結果分かったこと

キックオフイベントの開催と参加者へのアンケート調査から、本プロジェクトのめざすものが、現実の高齢者のニーズに即したものであることが明らかになった。

- ・当該年度に明らかになった次年度に向けての課題とその解決方法の検討

令和4年度の経験から、現在のプロジェクトのメンバーでは人的リソースの不足が明らかになったことから、研究実施をサポートする研究者や事務職員を雇用する必要がある。

## 2-5. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2022.10.20	ネットワーキンググループ打ち合わせ	グリーンヒルズ六甲	YYカフェメンバーとプロジェクト打ち合わせ
2022.11.8	ネットワーキンググループ打ち合わせ	神戸大学	イベント登壇者桂吉弥さんと打ち合わせ
2023.1.24	ネットワーキンググループ打ち合わせ	神戸大学	イベント打ち合わせ
2023.2.16	ネットワーキンググループ打ち合わせ	神戸大学	イベント打ち合わせ

## 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

現時点では特に実施していない

## 4. 研究開発実施体制

研究総括グループ

- ①片桐恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授）  
②実施項目：研究プロジェクト全体の企画と運営。イベント登壇者、研究協力者等との各種調整。具体的にはキックオフイベントの企画・実施。イベント参加者へのアンケート調査の実施、地元住民へのPR（ワイがやフォーラムのチラシとワイがや通信の発行と配布）

ネットワークングループ

- ①増本康平（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）  
②実施項目： キックオフイベントの企画・実施

測定グループ

- ①原田和弘（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）  
②実施項目： イベント参加者へのアンケート調査の実施・結果のとりまとめ

バーチャルグループ

- ①中村匡秀（神戸大学数理・データサイエンスセンター 副センター長・教授）  
②実施項目： センサリングのための機材を購入し、組立を行い、IoTを活用した調査実施準備を行った。

## 5. 研究開発実施者

### 研究総括グループ (リーダー氏名：片桐 恵子)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
片桐 恵子	カタギリ ケイコ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	教授
平山 洋介	ヒラヤマ ヨウスケ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	教授
竹内 真純	タケウチ マスミ	神戸大学/日本学 術振興会	大学院人間発 達環境学研究 科	RPD
福沢 愛	フクザワ アイ	東京大学/日本学 術振興会	未来ビジョン 研究センター	RPD
Kim Nahyun	キム ヒュ ン	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	D2
安里 知陽	ヤスザト チハル	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	D3

### ネットワーキンググループ (リーダー氏名：増本 康平)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
増本 康平	マスモト コウヘイ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	准教授
伊藤 真之	イトウ マ サユキ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	教授
稲原 美苗	イナハラ ミナエ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	准教授
加藤 慧	カトウ ケ イ	デザイン・クリエ イティブセンター	神戸企画事業 部門	スタッフ

バーチャルグループ (リーダー氏名: 中村 匡秀)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
中村 匡秀	ナカムラ マサヒデ	神戸大学	数理・データ サイエンスセ ンター	教授

測定グループ (リーダー氏名: 原田 和弘)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
原田 和弘	ハラダ カ ズヒロ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	准教授
木村 哲也	キムラ テ ツヤ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	准教授
佐藤 幸治	サトウ コ ウジ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	准教授
石原 暢	イシハラ トオル	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	助教
木伏 紅緒	キブシ ベ ニオ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	助教
片桐 恵子	カタギリ ケイコ	神戸大学	大学院人間発 達環境学研究 科	教授

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023.2.5	ワイがやフォーラム	神戸大学	神戸大学	63名	プロジェクトキックオフイベント <b>【目的】</b> ・プロジェクトの周知 ・高齢者のニーズの把握とプロジェクトの方向性の確認 ・イベントによるネットワーキング効果の確認 <b>【内容】</b> 2-4にて詳述

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

特になし

### 6-3. 論文発表

なし

### 6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

なし

### 6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

- (1) 新聞報道・投稿 (0件)
- (2) 受賞 (0件)
- (3) その他 (0件)

### 6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0件)
- (2) 海外出願 (0件)